

平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査速報

●実施状況

令和元年 5 月 15 日に成魚調査を実施した。調査当日は若潮で、干潮が 8 時 43 分、満潮が 14 時 43 分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は 1.2~2.8m であり、St.10 でのみ赤潮状態が確認された。また、St.22、St.25 の下層の溶存酸素量が低く、特に St.22 では 2mg/L 以下となり、貧酸素状態が確認された(千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報では、St.22、St.25 周辺にあたる、内湾北部の水深 10m~20m の海域で貧酸素水塊の発生が確認されている)。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:07-10:48		11:15-11:55		12:15-12:49		13:05-13:41	
水深(m)	24.7		16.7		13.6		8.9	
天候	曇		晴		晴		晴	
気温(°C)	20.0		20.0		23.2		23.4	
風向/ 風速(m/sec)	S/2.4		S/3.2		SW/2.4		S/5.5	
波浪(m)	0.4		0.2		0.1		0.1	
透明度(m)	2.5		2.8		2.2		1.2	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	18.9	15.9	19.0	15.7	20.0	15.4	21.5	17.1
塩分(ー)	30.9	33.9	27.5	33.9	29.0	33.2	21.3	31.7
DO(mg/L)	11.1	3.1	7.9	2.2	11.7	1.1	12.2	4.6
DO飽和度(%)	143.1	38.0	100.9	26.6	153.5	13.9	156.4	58.0
pH(ー)	8.5	7.9	8.3	7.8	8.5	8.0	8.4	8.4
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考			下層で貧酸素に近い状態が確認された。		下層で貧酸素状態が確認された。		赤潮状態が確認された。	

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

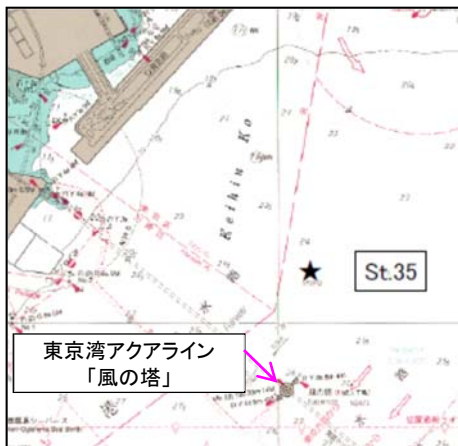
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	シログチ(c) ハタタテヌメリ(c) マコガレイ(r)	ハタタテヌメリ(c) テンジクダイ(r) モヨウハゼ(r)	ハタタテヌメリ(c) モヨウハゼ(+)	ハタタテヌメリ(r)
魚類以外 (目立った種)	オウギゴカイ(m) ケブカエンコウガニ(m) マルバガニ(m)	クシノハクモヒトデ(m) トリガイ(+) スナヒトデ(+)	クシノハクモヒトデ(m) トリガイ(m) ケブカエンコウガニ(c)	オウギゴカイ(G) クシノハクモヒトデ(G) アカガイ(r)
備考	上記の他、テンジクダイ、アカハゼ、タイラギ、シャコ等が採取された。	上記の他、ツメタガイ、ホンビノスガイ、ケブカエンコウガニ等が採取された。	上記の他、シャコ、サメハダヘイケガニ、マルバガニ等が採取された。	上記の他、サメハダヘイケガニ、イッカククモガニ、サルボウ等が採取された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

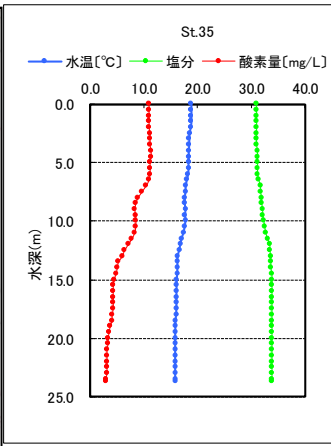
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況

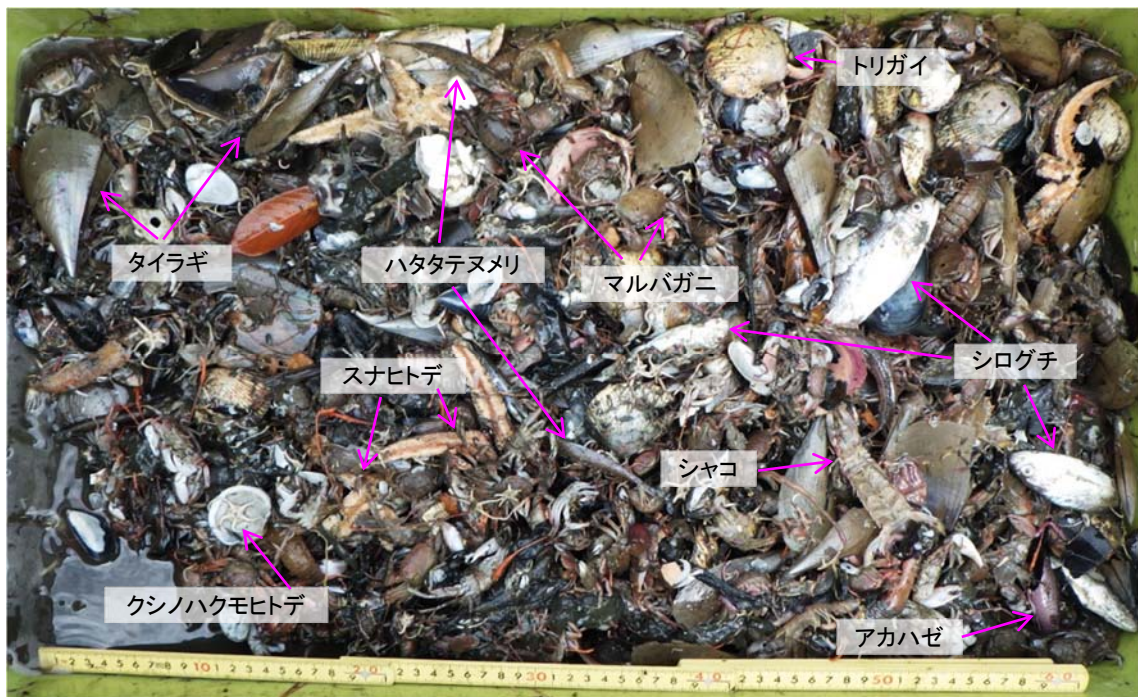


地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm

シログチ



泥底から砂泥底に生息する。東京湾では湾奥から外湾にかけての干潟域や人工海浜、砂浜海岸などで、夏から秋に体長 15～50mm の個体が出現する。

アカハゼ



東京湾全域から出現記録があるが、現在はおもに湾中央に分布する。産卵期は春で、干潟域の前縁のやや深い場所では浮遊仔稚魚が採取される。

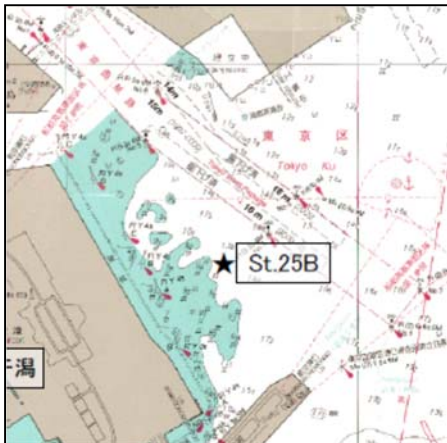
マコガレイ



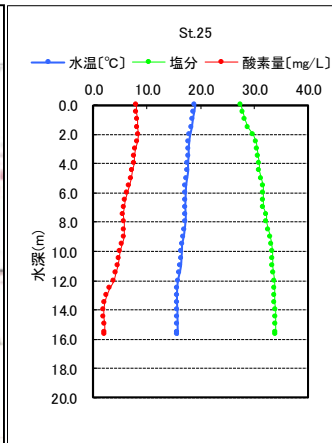
東京湾全域から出現記録があるが、おもに内湾に分布している。全長 45cm 程になるが、今回採取された個体は 10cm 未満の 11～3 月に生まれた 1 歳に満たない個体であった。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



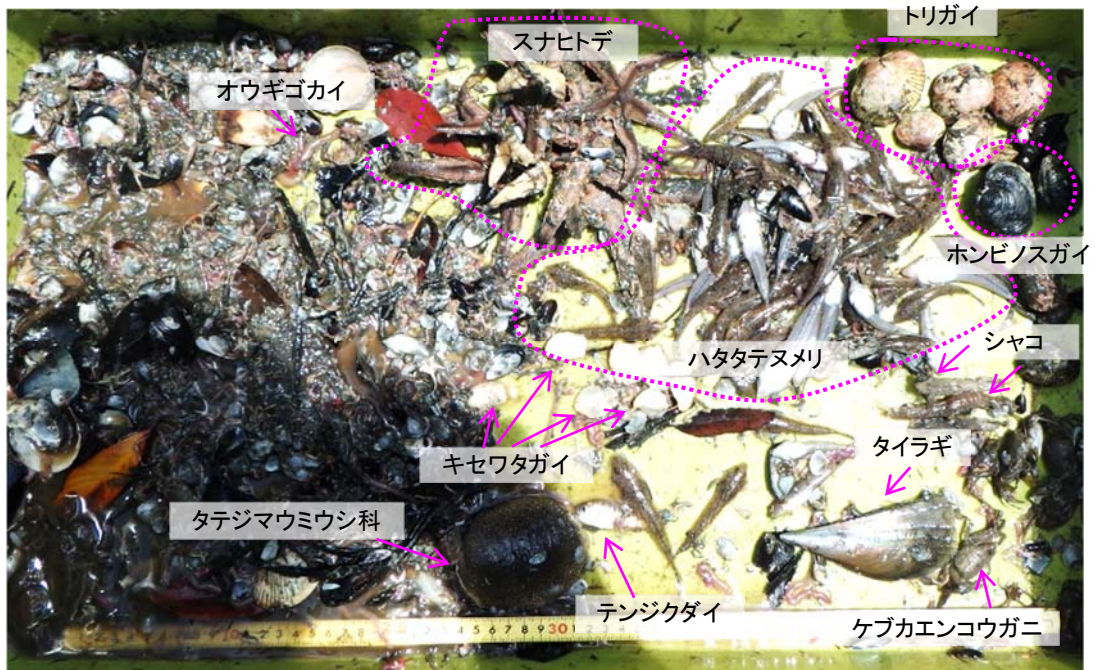
地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料

底層では、貧酸素に近い状態が確認された。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm

テンジクダイ



東京湾全域から出現記録があり、特に湾中央に多い。砂泥底に生息し、甲殻類等を食べる。繁殖期は7～10月である。

ホンビノスガイ



北米原産の外来種である。汚染に対する強い耐性を持っており、夏の貧酸素環境にも生き残ることができる。ホンビノスガイの殻は本来白っぽいですが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。

マルバガニ



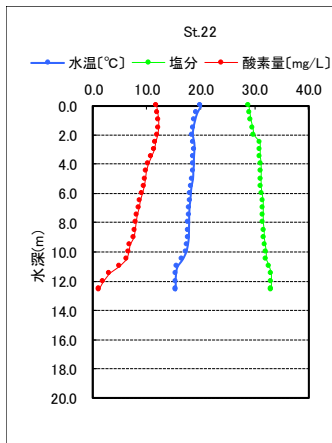
甲幅 35mm 程で、砂泥底に生息する。甲は厚く、丸みがある。1 対の濃紫色の斑点が特徴的だが、斑点のない個体もいる。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



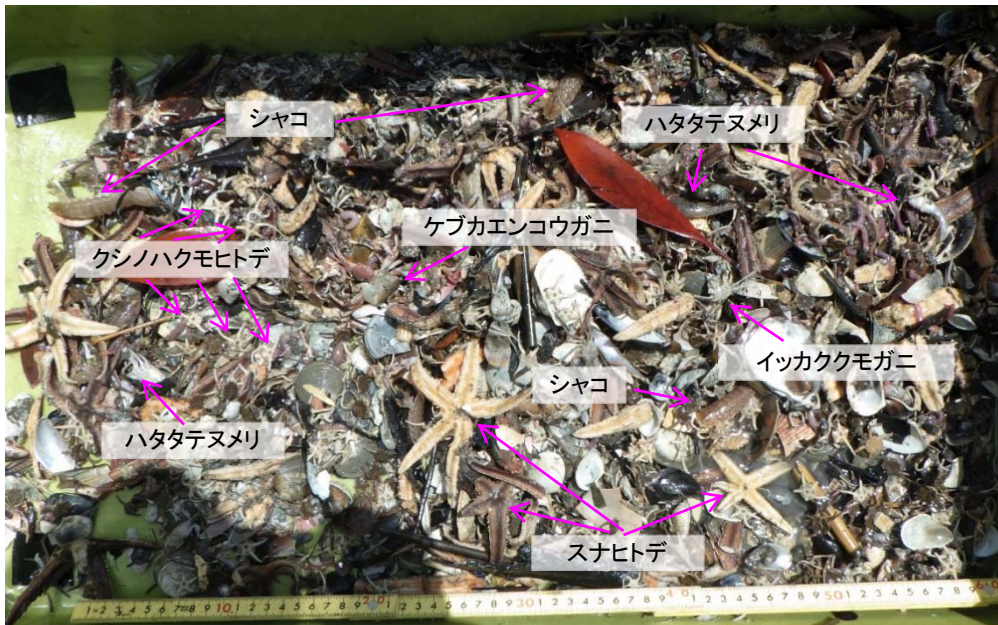
地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料

底層では、貧酸素状態 (D0: 2mg/L 以下) が確認された。



トリガイ

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm

サメハダヘイケガニ



甲幅 30mm 程で、砂底に生息する。ヘイケガニの名前の由来は、甲羅の模様が人間の怒りの表情に似ているために、平家の亡霊が乗り移った、と言われることに起因する。近縁種のヘイケガニよりも大型である。

シャコ



内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。東京湾では水深 15~30m に生息し、甲殻類・軟体動物・多毛類・魚類をとらえて食べる。産卵は 5 月中旬から 7 月上旬。

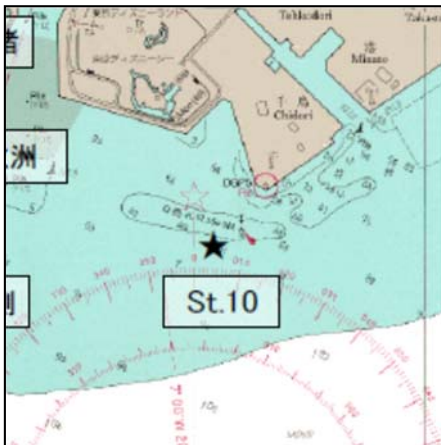


トリガイ

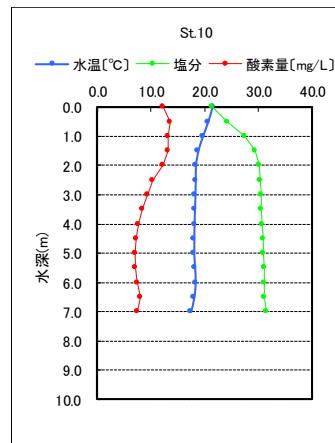
形はほぼ球形で、殻は薄く脆い。内湾の砂泥底に生息し、湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生によりほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は、翌年春に 60mm 程に成長し漁獲される。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



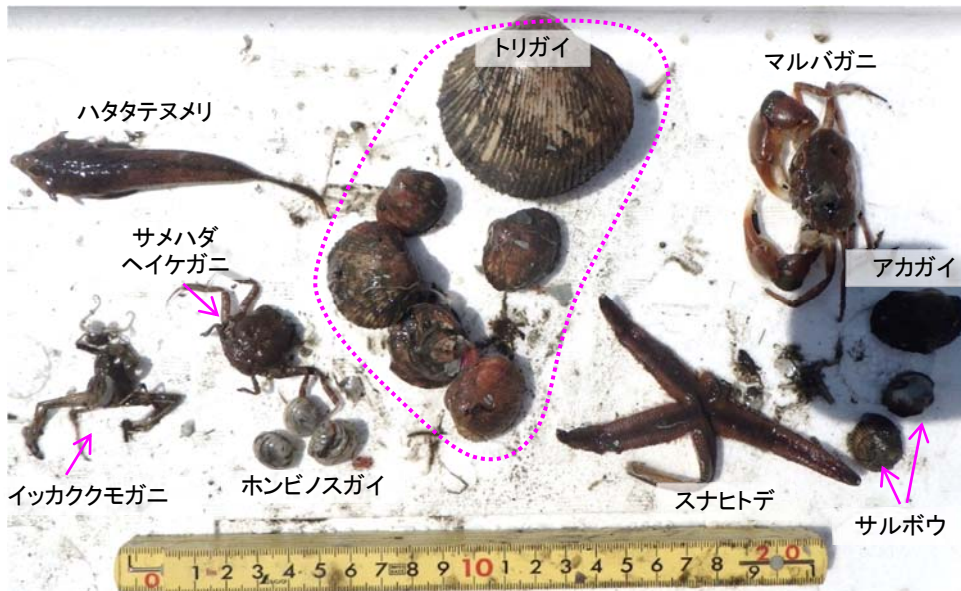
地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった。



クシノハクモヒトデ、オウギゴカイの他、ホンビノスガイ、トリガイの死殻など

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm

ハタタテヌメリ



全長 14cm 程になる。春や秋には、湾奥部に分布するが、夏には湾中央のやや深い場所に分布する。本調査の主要種の1つである。東京湾ではメゴチと呼ばれる。

アカガイ



殻長 10cm 以上になる大型種。殻の表面には 42 本程の太い縦筋が並んでいる。内湾の潮下帯から水深 20m までの砂泥底に生息している。よく似た種に殻表面の筋の本数の異なるサルボウ (32 本) がいる。

イッカクモガニ



甲幅 2cm 程。甲らは先端の尖った三角形で、歩脚が細長い。外来種であり、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。